

検討テーマに対する取組状況と今後の方針

27年度当初に設定した検討テーマ

取組状況・今後の方針

駅を中心とした歩いて暮らせるコンパクトなまちづくり【p25～】

- ・諏訪・永山が目指すコンパクトな市街地の全体像（まちのフレーム等）について検討を深める。
- ・まちのフレームの再設定を踏まえたURのストック活用方策について、引き続きUR等関係者と協議を行い、方針への反映を検討する。

⇒将来人口については、2050年に現在の人口を維持することを目標とし、それに向けた都市構造のイメージを、p25「目指す都市構造の姿」に示しました。
⇒URでは、H30年までストック活用を推進することとしており、p46～48「URのストック活用」に、地域包括ケアまちづくりの実践、新たな子育て支援策の実践とミクストコミュニティの強化等について記載しています。今後は、将来の方向性について、引き続き関係者間で情報交換を行い、適切に対応していきます。

近隣センターの再生【p26など】

- ・ターゲットを明確にするとともに、将来を見据え、多摩ニュータウンに求められる機能と、それを支えるしくみについて、近隣センターの再生と併せて検討する。

⇒p26に、これからの地域に「求められる機能」の項を追加し、現在お住いの方々が安心して暮らし続けられる環境を維持しつつ、若者・子育て世代の流入促進につながる機能について整理し、記載しました。

駅拠点の再構築【p27～】

- ・賑わいのある駅周辺となるような土地利用計画案について、D案を目標とすることを方針として記載するとともに、大まかな事業性（フィジビリティスタディ）について検討する。

⇒p27～31に「駅拠点の再構築」について記載し、土地利用計画（案）としてA～D案を掲げています。D案の概略の事業性（全体事業費、費用負担の試算等）については、別途調査の中で事業スキーム等の検討・検証を行っているところです。今後は、D案を目標としつつ、地権者や事業参画者との協議や調整を踏まえ、より具体的にしていきます。

南多摩尾根幹線の整備と沿道土地利用【p35～】

- ・尾根幹線沿いの創出用地の活用の方向性（コンセプト）について、検討を深める。

⇒p35～41に「尾根幹線整備と沿道土地利用」について記載しています。p38「沿道土地利用の具体的な事業」に、「次世代を見据えた産業・業務機能や、商業機能を展開し、多摩ニュータウンの新たな付加価値を創造する」事業に活用していく方針を記載しました。今後は、各方面の意見を聞きながら、より具体的な活用方策の検討を行っていきます。

分譲団地の再生【p42～】

- ・市による支援制度（ソフト）の創設について、諏訪2丁目団地の経験を踏まえ、記載を検討する。
- ・分譲団地における耐震診断の促進について、国や都の支援事業に係る最新情報の提供、住替えシステムとの連携など、更なる促進策を検討する。

⇒p42～45に「分譲団地の再生」について記載しています。p45「方策5 建替え負担軽減策の検討」に、仮住居先確保に関する支援、手続等相談体制の充実などについて追加しました。
⇒p44「方策2 耐震化に向けた取組の促進」に、マンション啓発隊、耐震アドバイザー、耐震診断への助成の拡充等について記載しました。

検討テーマに対する取組状況と今後の方針

27年度当初に設定した検討テーマ

取組状況・今後の方針

地域包括ケアと連携したまちづくり【p46 など】

- 地域の医療・福祉の視点から、UR施策と連携した、諏訪・永山地区における地域包括ケアまちづくり（スマートウェルネスシティ）についての記載を検討する。

⇒p46に、「URのストック活用」の一項目として「地域包括ケアまちづくりの実践」について記載しています。加えて、p51に「健幸都市（スマートウェルネスシティ）の展開」の項を設け、地域ごとに複合的に機能が集積した「小さな拠点」の形成や、健康づくりの場となる歩きやすい道のネットワークの形成等について追加しました。今後は、福祉部門をはじめ、各方面の関係者と連携・調整しながら、取組内容の具体化を図っていきます。

住み替え支援【p49～】

- 多摩市版の「住替え循環システム」のあり方について検討を深める。

⇒p49～50に、「住替え循環システムの構築」について記載しています。p49に「住替えバンク多摩 NT モデルの構築（例）」として、優先分譲枠の確保や、新築のまま住替えバンクに供する住宅の確保等について記載しました。また、p50に「（仮称）多摩市住替え協議会」のイメージを記載しています。協議会の実現に向けて、現在、市内の不動産関係団体等と勉強会を開始しているところですが、今後も具体化に向けて検討を重ねていきます。

ソフト全体【p52～】

- ソフト面の取組方針について、系統立てて整理するとともに、記載方法を検討する。

⇒p52～58に「ソフト面でのまちの活性化」について記載しています。冒頭に、ソフト面からまちの活性化に取り組む意義として、①来街と居住の促進、②居住の安定化、③取組を推進するための体制整備の3つの視点を示し、その柱に沿って方針を記載するとともに、記載内容を拡充しました。

情報発信【p52～】

- 魅力発信サイト「丘のまち」（H27.1 開設）について、方針として記載の追加を検討するとともに、NT 再生会議や地域の担い手（活動団体）の取組紹介など、更なる充実を図っていく。

⇒p52「来街と居住の促進」に、「①多摩ニュータウンの魅力発信」の項を追加しました。内容面では、多摩 NT で活躍する方々を紹介する「丘のまち物語」や、「地域レポート」を定期更新しており、更に、市民参加型の情報発信機能を追加する予定です。今後は、企業や教育関係機関等と連携し、若者や子育て世代に対する多摩 NT の魅力発信の更なる展開を図っていきます。

検討テーマに対する取組状況と今後の方針

27年度当初に設定した検討テーマ

取組状況・今後の方針

学生寮プロジェクト【p55】

- 「学生寮プロジェクト」について、方針として記載の追加を検討するとともに、効果を検証しつつ、今後の展開を検討する。

⇒「学生寮プロジェクト」については、多摩大学・UR・市で協定を締結し、H27.4に取組を開始しました。p55「居住の安定化」に、「①学生の居住と地域コミュニティ活動への参加の仕組みづくり」の項を追加しました。三者で定期的に意見交換を行っており、今後も取組を拡大していく予定です。

多摩ニュータウンにふさわしいエリアマネジメントの考え方【p58など】

- 将来を見据え、多摩ニュータウンに求められる機能と、それを支えるしくみについて、生活支援や、多摩NTにふさわしいエリアマネジメントの考え方と併せて検討する。

⇒p26に、「求められる機能」の項を追加し、現在お住いの方々に加え、若者・子育て世代の流入促進につながる機能について整理しました。また、p51に「健康都市（スマートウェルネスシティ）の展開」の項を設け、「小さな拠点」の形成や、歩きやすい道のネットワークについて追加しました。今後は、福祉部門をはじめ、各方面の関係者と連携・調整しながら、取組内容の具体化を図っていきます。

エリアマネジメントについては、p58に「まちの活性化の取り組みを推進するための体制整備」の項を追加し、行政・NPO・民間事業者等がこれまで以上に協働し、地域づくりを進めていくためのプラットフォームについて、構築イメージを記載しました。

プロジェクトの進行管理（PDCA）【p59～】

- 方針に基づくプロジェクトの進行管理の方策や、社会経済情勢の変化等を踏まえた軌道修正の考え方について検討する。

⇒p59～61に「先行再生地域のプロジェクト進行管理」について記載し、p61に今後KPI（重要業績評価指標）を適切に設定し、PDCAサイクルの具体化を図ることを追加しました。今後の各プロジェクトを進行管理する体制や、他の地区への展開方策等については、第2回会議で検討を行いたいと考えております。

法面緑地取扱いガイドライン【p62】

- 「（仮称）法面緑地取扱いガイドライン」について、ガイドラインの趣旨及び取扱うべき事項について検討する。

⇒p61に「（仮称）法面緑地取扱いガイドライン」について記載しています。ガイドラインの趣旨及び取扱うべき事項として、良好な住環境を保全しつつ、沿道からの視認性やアクセス性の向上、滞留空間や賑わい空間の創出等を加えました。